

「あこがれの自分を目指して ～共に歩む！一人でも翔ぶ！～」

平成29年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成30年1月 9日(火)発行 第 36 号 発行責任者:高橋 弘悦

明けましておめでとうございます

平成30年が明けました。31年5月には新年号になることを考えると、実質的に平成最後の年になるかと思えます。そして、この平成最後の年が西山中学校最後の年であり、統合中学校最初の年にあたります。

本日始業式を迎えましたが、子どもたちは新年早々1月4日には全員登校、早々に部活動、学習に…と励んでいました。満を持しての三学期の始まりです。

3学期は西山中学校の最後を飾り、それとともに統合中学校への円滑な移行を行うための諸作業を行う大変忙しい3ヶ月になりそうです。

目の前の子どもたちに最高の教育を提供し、西山中学校最後の生徒として恥ずかしくない実績を上げること、そして70年の歴史を飾るにふさわしい活動をしていきたいと思えます。一層のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

西山中学校職員一同

七日堂詣りに貢献

全国的にも有名な七日堂裸詣りに今年も西山中学校から多くの生徒が協力してくれました。今年も伝統を途絶えさせまいと、天斗くんが3年連続、1年生の晃太朗くんも昨年に引き続き参加してくれました。晃太朗くんは、1番のり、続いて天斗くんが続き、見事に登り切りました。

おもてなしの部では、真生さん、紬さんの2名が参加。道行く人に大きな声で呼びかけを行っていました。

少人数の学校ではありますが、今年も例年に劣らず千年以上続くという町の伝統行事に貢献することができました。



平成29年度 第三期始業式式辞

平成30年1月9日（火）

今年は記念すべき平成の三〇年。ミレニアムの年です。皆さんはどのように新年を迎えたでしょうか。

さて、いよいよ3学期。最後の3ヶ月になります。2学期の終業式にもお話ししましたが、閉校を迎える西山中学校の生徒である皆さんにとっては、西山中学校の総まとめを意識しての生活を心がけなければならない『特別な』3学期です。

終業式では、松下幸之助さんのことばを紹介しました。「自分で歩んだ道の目的地には必ず「結果」が待っている。休まず歩む姿からは必ず結果としての新たな道が開けてくる。深い喜びが生まれてくる。この中の「深い喜び」の意味をしっかりと考えて欲しい」とお話ししました。

2学期の活動を糧とし、自分の力として発揮するのが3学期です。深い喜びを求めて、成長する3学期としましょう。

ある本で、次のような詩を読みました。

心臓から送り出された新鮮な血液は
十数秒で全身をめぐる
わたしはさっきのわたしではない
そしてあなたも
わたしたちはいつも新しい



これは、川崎洋さんという方の詩です。詩はもっと続きます。

きのう知らなかったことを
きょう知る喜び
きのうは気づかなかったけど
きょう見えてくるものがある
日々新しくなる世界

毎日は、決して繰り返すではありません。きのう知らなかったことを、次の日に新しく知ることは、皆さんの身の回りにたくさん起こっています。

この3学期は、大切な「今」を意識して、これまで気づくことができなかつたこと、見えなかつたこと、できなかつたことを一つ一つ自分のものにしていく日々にして欲しいと思います。それが「深い喜び」につながり、西山中学校の最後の卒業生として、最後の生徒としてふさわしい姿につながっていきます。

残された一日一日を大切に、新しい「いま」を充実させる3学期にしてくれることを期待して式辞とします。

残された一日一日を大切に、新しい「いま」を充実させる3学期にしてくれることを期待して式辞とします。

